令和６年度　第１回学校運営協議会　議事録

1　日時　令和６年６月 11 日（火）13:30〜15:00

2　場所　大船渡高校　大会議室

3　出席者　10 名/15 名

（大学関係者、地元企業、近隣中学校校長、行政関係、商工会議所、社会福祉協議会、近隣住民等）

校内出席者

校長、副校長（全・定)、事務長、全日制各課主任５名、定時制総務課主任）

4　内容

（１）協議事項

（ア）会長・副会長選出

（イ）学校経営の基本的な方針の承認　（学校長からの説明内容）

全日制

授業第一　　主体的に学ぶ態度、思考力、判断力、表現力、言語能力を身につける。

地域還元　　教員志望者の小中学校でのインターンシップなど、地域連携を学んだ生徒は地域に戻ってくる統計があるので、実施したい。

起業家教育 大船渡学をベースにして起業家精神を徐々に育みたい。

定時制

自立、人生設計力、主体性、を重視している。

地域と連携して、学校による体験活動に参加は１００％達成。今年度主体性を足した。

【質疑・応答】

・教員志望の小中学校でのインターンシップについて詳細を知りたい。ぜひ本校にも来て欲しい。(委員)

→現在構想段階であるが今年度の実現に向けて動いている。(校長)

・今年度重点目標の「カ安心して学校生活を送ることができている」目標数値 90%は、「エ」と照らし合わせてみてもなぜ 100%ではないのか。マイナス 10%の中身はなにか。(委員)

→100%の実現を目指しているが､10%は､校舎の老朽化や､通学中の事故などを想定している。（校長）

（２）報告

ア　学校概況説明全日制　資料の通り

イ　学校概況説明定時制　資料の通り

（３）その他

【質疑・応答】

・3年生から1年生にかけて生徒数が減っているのは少子化が原因か。（委員）
→気仙地区の生徒数が減っている。少子化傾向もある。（副校長）

・生徒減少の対策として地域留学について関心をお持ちか。（委員）
→視野に入っている。自治体の補助、企業の連携が必要であり、生活圏や住居などの提供に至っては、学校独自では難しい現状がある。（校長）
・大船渡は企業力が武器であるので、地域で高校生の居場所や活躍の場を考えていきたい。（委員）
・大船渡市としても、様々な支援の方法を探りたい。（委員）

（４）　連絡
ア　学校運営協議会の関する規則について　別紙
イ　第２回熟議のテーマについて　　例）地域未来留学についてなど、提案してください。
ウ　第２回学校運営協議会について　２月20日（木）前後を予定している。
エ　大船渡学公開日　７月25日（木）詳細は後日お知らせします。
オ　ＤＸハイスクールの採択校となった。成果の報告は２月に行う。
カ　将来的な制服の変更についてお力をお借りすることもある。

（５）　委員の皆さんからひと言
・中学校としても、個人としてもなにかあれば協力したい。
・大船渡学で社会福祉協議会をまた活用して欲しい。
・市役所も地域留学などの話があれば前向きに検討したい。
・大学も地域連携に力を入れている。越喜来でのイベントを控えており、大船渡高校の生徒にも来て欲しい。
・地域を出ていく生徒が多い中、戻ってきて魅力的な企業があることを知って欲しい。進学校ではインターンシップはしていないようだが、検討して欲しい。
・定時制の生徒が防災に取り組んでいるのでこの活動を大事にしたい。
・定時制の FM ねまらいんの活動を引きつづきお願いしたい。また、働くということを意識しないまま、進学していくことに不安を感じる。安全で安心した学校100%については周囲の環境を生徒に聞いてみることもできるのではないか。
・地域学や大船渡学などの学びが多様化していて感慨深い。少子化を憂う。
・地域と自治体の連携が大事だと感じる、強めていって欲しい。
・大船渡高校が進学校としての体制を崩すことなく、市民の期待に応える学校であり続けることを期待している。また、大船渡東高校は総合高校としての魅力を発信し、維持できるようにするのが気仙地区の高校教育の理想であろう。